前田 朱美 助教
修士(保健学)
Akemi Maeda
✉ akemi.maeda@komatsu-u.ac.jp

研究 Keyword　発達特性　発達障害　乳幼児　家族支援　子どもの権利　看護教育

プロフィール
2019年　金沢大学大学院　医薬保健学総合研究科　保健学専攻　博士前期課程　修了
1998年　こまつ看護学校　専任教員
2020年　公立小松大学　保健医療学部　看護学科　助手
2022年　公立小松大学　保健医療学部　看護学科　助教

研究分野
小児看護学　生涯発達看護学

所属学会
日本看護科学学会、日本小児看護学会、日本小児保健協会、日本看護倫理学会、日本看護学教育学会、看護実践学会、日本公衆衛生看護学会、北陸公衆衛生学会

専門分野・研究分野

発達障害のある子どもと家族が安心して医療機関を受診できる支援

発達障害のある子どもは、アレルギー、胃腸障害、頭痛など健康問題のリスクが通常の子どもより高いと言われています。また、てんかんなどの脳波異常や睡眠障害などの合併症があることが知られており、健康問題や健康管理に関する医療的ニーズがあります。

子どもが病気になり受診する医療機関は日常とは異なる環境です。子どもは、症状に伴う苦痛に加え、見慣れない環境の中で普段は経験しないことに遭遇することになり、より多くの不安や恐怖を抱くことになります。

発達障害のある子どもは、状況の読み取りが苦手であったり、嫌なこと、怖いことをより強く感じるという特性があります。また、医療設備や医療器具などから感じる感覚(触覚、嗅覚、視覚、聴覚など)は通常の感覚とは全く違うと言われています。さらに、何が嫌なのか、何に困っているのかなどを表現することが苦手です。結果、不適応行動を起こすことになります。

発達障害のある子どもをもつ家族は医療機関に対して、発達障害の理解の不足から生じる不満や受療行動の障壁を感じていることが報告されています。健康問題を抱える発達障害のある子どもに適切な支援が実施されなければ、医療への抵抗や恐怖は増幅し、その後の受療行動に影響を及ぼします。小児期に安心して医療機関を受診できた経験は青年期以降の適切な保健行動につながると考えます。

これらのことより、発達障害のある子どもと家族が安心して医療機関を受診できるための支援を目的に研究に取り組んでいます。

研究内容

医療機関における看護師の発達障害のある子どもと家族へのプレパレーション

子ども達は、認知発達に応じた方法で、病期や治療、検査・処置などの説明を受けた場合、その必要性を理解し、その子なりに状況を受け止めて、おとなとは違うその子なりの納得の仕方で治療や処置を受けることができます。その環境を整え機会を与える関わりをプレパレーションと言います。プレパレーションは、子どもや家族の人権や利益を考えた看護ケアです。

発達障害のある子どもに対してプレパレーションを行う際には発達の特性を考慮することが求められます。その実践には、看護師の、知識、思考、行動、性格、動悸、価値観、環境などが影響すると考えられるため、それらの実態や関連を明らかにしていきます。これらを明らかにすることで、発達障害のある子どもの特性をふまえたプレパレーションの課題を見出し、教育プログラムの構築に繋げたいと考えています。

シーズ・地域連携テーマ例
- 発達障害の疑いのある子どもとその母親への支援技術
- ロールレタリングを活用した学生支援

論文
- 発達障害の疑いのある児とその母親が参加する遊びの教室における保健師の支援技術，前田朱美，表志津子，岡本理恵，中田明恵，北陸公衆衛生学会誌，48（1），1-9，2021

講演・口頭発表等
- ロールレタリングを活用した学生支援の実践報告，前田朱美，津田裕子他，第13回看護実践学会学術集会（石川），2019年9月
- 発達障害の疑いのある児とその母親が参加する遊びの教室における保健師の支援技術，前田朱美，表志津子，岡本理恵，中田明恵，水本ゆきえ，第8回日本公衆衛生看護学会学術集会（愛媛），2020年1月

遊びの教室における保健師の支援技術